

怒りとは

天地を引き裂く雷鳴は、晴れのち曇りというおだやかさではありません。青天の霹靂^{へきれき}は親父の拳骨と同じです。しかし、怒りの炎は、これまで努力して積んできた功德の山が一瞬にして崩れ、失神狂乱して人命を奪うこともあります。

青筋をたてて怒り狂った顔は、真っ赤々です。怒りの形相はまさに火山の噴火そのものです。鼻の穴をパッキリひろげて、目玉が飛び出て、熱い息が激しく噴射しています。罵詈^{ばりばとう}罵倒されている人は、山頂の火口に立って、今にも突き落とされようとしている状態です。

こんなときは相手と応酬しないことです。その怒りを受け止めて静かに念じることです。怒り狂った相手は、やがて冷静さを取り戻して自分の言動に恥じ入り、まるで池の水面のように穏やかになっていくことでしょう。観音さまを祈る冷静な念波が、狂乱する相手の良心の琴線に触れるからです。これが「念彼観音力^{ねんびかんのんりき}」です。以下の句は、観音経の一節です。

假使興害意 ^{けしこうがい い}	たとえ悪意に満ちて襲われ
推落大火坑 ^{すいらくだいかきとう}	噴火口に突き落とされても
念彼観音力 ^{ねんびかんのんりき}	かの観音の力を念ずれば
火坑變成池 ^{かきょうへんじょうち}	火口が池に変わってしまう

雲雷鼓掣電 ^{うんらいくせい でん}	雷音が鳴り響いいても
降雹澍大雨 ^{こうばくじゅだいう}	霰や豪雨が降っていても
念彼観音力 ^{ねんびかんのんりき}	かの観音の力を念ずれば
応時得消散 ^{おうじとくしょうさん}	たちまち消え散ってしまう

観音さまの効験は即刻です。信者の真剣な祈りが観音力と一致すれば、瞬間に奇跡を起こします。突然の落雷のように、観音さまは慈悲の靈験を示されます。

さて、自分の情けなさに、自分で怒れてくることはありませんか？ くやしきです。なぜ自分にはできないのだろうかというくやしきは、「なに、くそっ！」というエネルギーになります。自分に向けられた怒りの発奮は、誰にも負けない特技に進化していく可能性があります。怒りは、外にぶつけるのではなく、内に向けてこそ本当のエネルギーになるのです。

江戸時代の慈雲尊者は、「怒らない人は、顔が美しく、上品で、智恵や言葉が深く、憂いが無い」と、『人となる道』のなかで述べておられます。美しくなりたい人はご参考までに…。